公民連携箕面観光戦略会議　第２回全体会議　議事要旨

箕面市観光協会

日　時：令和4年 10 月 24 日　19時00分～21時 15 分
会　場：箕面文化・交流センター　８階　大会議室
参加者：会場参加者 17 名／オンライン参加者 ４ 名
（公民連携箕面観光戦略会議　第２回全体会議　出席者名簿　参照）

1.開会の辞
事務局より開会が宣言され、議事に入るまでの間、事務局が司会進行をおこなった。
池田泉州銀行箕面駅前支店支店長　杭田様の会議メンバー加入の経緯説明。

2.議事
（1）ハーツベリー企業共同体より「公民連携箕面観光戦略会議経過概要」に基づき、「公民連携箕面観光戦略会議第2回全体会議検討資料」の中間報告、「箕面市の観光についてのアンケート調査」の調査結果報告をおこなった。

（●：各委員　○：柚木座長（委員の意見を受けて）◎：ハーツベリー企業共同体（委員の意見を受けて））

●もみじの天ぷらと箕面ビール以外に、特産物としてゆず、山椒などがあるが、供給量が少なく広がらないという問題がある。供給量を多く出来る工夫をするか、他の特産品で供給量が十分なものを作る方が良いのか検討してはどうか。
あと、東部エリアについて、小野原を想定してあると思うが、東部の検討の際には小野原だけでなく粟生間谷周辺も検討に入れてほしい。

○事例として、和歌山県には「じゃばら」という果実があり、それが花粉症に効くと言われている。生産量も供給量も少ないが、少ないからこそ付加価値がある。
そういった商品の磨き方でブランディングをしていけば、商品の価値も上がる。その様なことを皆で勉強しながら進めていく。

●箕面検定の推進について、お店の活性化につながる割引制度などで検定合格者へのインセンティブを設定し、検定の推進と同時に地域振興に活かしてはどうか。

◎箇面検定は箇面観光ボランティアガイド主導で作成されたものであり、今は様々なシステム上の問題で運営できない状態にある。小学生・中学生から、幅広い世代に検定問題を浸透させるようにできないものか、箇面観光ボランティアガイドへ相談し協力するとの返事もいただいている。
上記のように、今後の観光推進はどういう形で進めるか。検討資料に書かれていることを、どういう形ではじめどう進めていくのかというのが一番大きな課題である。その際には様々な意見を収集できるシステムが構築できればと思う。

〇他府県の検定に関わったことがあるが、割引サービス等を行っているところもあり、リピーターを生み出している。また、箇面観光ボランティアガイドでも、ルートの説明に長けた人で説明が上手な方等は、特定の機関が認定するような仕組みがあった方が良い。より正しく、深く、箇面のことを解説できる人々が増えることにも繋がり、ブランディングやシビックプライドと言われる、箇面のファンを増やすということに繋がっていく。

●「公民連携箇面観光戦略会議第2回全体会議検討資料」の P2 に SDGs のマークが入っていて良いと思う。観光戦略の中に「持続可能な観光戦略」という言葉があり、「持続可能な」という部分でいくと、「自然」、「歴史文化」、「人」という要素がある。その辺りの基本的な最初の方針が、観光戦略に一貫して貫かれているのか疑問に思う。
また、新たな観光スタイルの中で、大阪広域での観光戦略の中での箇面ということはもちろん、豊能町や池田市など北摂等含めての広域で、大阪観光局とどのように連携して、そのポジションの中でどう磨きをかけていくのかというような視点が必要ではないか。もう一つは新型コロナの関連で、観光は量から質へ転換しており、それは SDGs とか持続可能とか自然資本を生かすことに繋がってくるのではないかと思う。

◎観光戦略への記載として持続可能なという部分は、箇面は 4 分の 3 が山であり、それらに育まれており、観光だけでなく、箇面の生活ということを考えると、それを保全できなければ、すべてが成立しないように思うので、それらを踏まえて盛り込んでいく必要がある。大阪広域に関しての部分は、多く付け加えるところがあるので、ご意見をいただきながら調整していく。

●観光ブロックエリアについて、箇面の森は自然があり、箇面駅周辺エリア、箇面公園エリアも、もちろん自然との入り口のところでもあるので理解できる。止々呂美においては田園風景が良くて自然も豊かで色々な可能性があるので、これも良いと思う。西国エリアの西国街道も、歴史の部分で色々な選定とかもあるので良いと思う。残りの萱野新駅・箇面船場阪大前新駅・東部エリアは、箇面市としてもそれぞれにコンセプトがあって創ってきた新しい町なので、表現を見直してはどうか。それぞれのエリアの特色がある

し、成り立つものもあるので、全ての箇所を観光の主役にする必要はないのではないか。
箕面観光といえば阪急箕面線で、箕面駅に来て山に入っていくということで、そこに来た人をいかに市内に誘導するかが大きな課題なので、そういう意味で交通面の整備をするのが良いと思う。
箕面駅周辺を中心に観光は特化し、そこから波及していくような表現が良い。上記は個人的な感想だが資料に記載するのであれば、もう少し丁寧に各エリアについて、元々ある街づくりのコンセプトみたいなものを出して、そこに観光要素を付加していくといった表現で書いた方がいいと思う。効果的な投資をする意味でも、滝道や箕面駅周辺エリアに何か面白いことをするとか、情報プラットフォームを作るとか、その辺にお金をかけて、箕面市としては今回こういう施策を打ったのだと言っていけるようにする方が良いのではないか。

〇アクションプランがまだ全部出揃っておらず、もう少し細かく掘り下げていかないといけないところがある。そこを入れることで、箕面駅周辺エリアが中心になってくるということ等、策定部会の中でも箕面の滝周辺のところを重点的にやっていこうという話も出てきている。詳細については、策定部会の中でこれから議論していくことになっていく。

●箕面市の概況で修正点があるので、事務局に別途訂正をお願いする。今回の中間報告の中には、ソフト施策の部分からハード施策まで広く掲載をされており、すぐにできそうなもの、すぐに取りかかればいいようなものから、相当コストと時間をかけてやらなければならないものもあるので、まとめ部分ではこれからご意見ももらうという風に進めてもらえればと思う。
止々呂美エリアの内容で「植栽・サイン・建造物等の統一」という記載があるが、これについては新名神が開通する折に、色々な建物が乱立するという恐れがある中で見直し、デザイン等の大整備をした経過がある。そういったところを 1 回確認した上で、この箇所をまとめていただきたい。
道の駅のような観光物産センターという記載では、止々呂美のそういった部分での良さというものを、色々活かせていけたらよいと思うが、マンパワーの部分であったり、やりたいけれどもなかなか難しいという経過もあって、土日に朝市を実施していただいたり、できることからやっていく方がよいと感じる。
新駅周辺については先ほど意見があった通りで、船場阪大前駅周辺においては、大阪大学の箕面キャンパスがあり、多くの学生さんがおられるということもあり、色々なことができるのではということもあるし、地域のまちづくり協議会であるとか連合自治会の方々も、この新駅周辺のまちづくりを広く進めていきたいと検討されているので、できるだけ地域のご意見を聞いて、進めていっていただければ大変ありがたい。

●ブロックエリアの関係で、箕面船場阪大前駅のキーワードとして「健康福祉、文化芸術に沿った観光事業の展開」と記載されているが、もう一つのキーワードとしては大阪大学外国語学部があるので「国際」というキーワードも盛り込んではどうか。箕面の駅前にもたくさんの外国人の方が来られるという風にも想定でき、今後船場からの発信もできるという部分では国際交流を強みに押してはどうか。

●箕面は、豊かな緑というのが非常に大きな財産だと思う。「緑を保全するという様な視点からの観光」というのを考えてはどうか。そこが SDGs にもなり、グリーンツーリズムやウェルネスの部分に通じるものもあるのではないか。

●箕面キャンドルロードに行った際、沢山の人が集まり写真撮影をされており、よい観光コンテンツだと感じた。大半の人が 8,000 円以下しか使ってないというアンケート結果にもあったが、キャンドルロードは開催が遅い時間帯だったからかもしれないが、お金を使うところがなかった。開いているお店も少なく、行ける店も限られている。大手資本のお店が沢山あるが、地元にお金を落とせる仕組み自体があまりないのが現状である。「小さなお店応援チケット」のような地域通貨的なもので、そこでインセンティブも働き、他地域の方が箕面でお金を落としていただくことも検討してはどうか。
更にキャッシュレスを進めれば、インバウンド向けにも使いやすく、SNS を使って情報発信するのであれば、SNS を駆使するスマートフォンで全部決済する事ができるようになればよい。プラットフォームとしてもっと発信できれば、お金を使いやすい環境が整うことで、利益が生まれ、街も潤い、箕面市も潤い、好循環が生まれるのではないか。お越しいただく方に、還元できるような仕組みを作っていけばいいのではないか。

●生物多様性フォーラムでは、参加者からアクションプランのアイディアシートがたくさん出たので、そのうちの2つを紹介する。グリーンツーリズムついて、インバウンドに向けてネイチャーガイドの養成講座があるといいのではというアイディア。東部エリアの国際交流のテーマでは、箕面在住で自然のこともある程度よくご存知な方を、インバウンドに対してのグリーンツーリズムといったところに活かしてはどうか。もう 1 つは、若い人から生物多様性を象徴するような「ゆるキャラ」を作って、グッズを売り上げて、そのお金を生物多様性の保全のために使うという意見があった。例えば、箕面にはオオサンショウウオは 200 匹ほどいて、全部純血種と言われているので、そういったキャラクターの開発をしてはどうか。その他、箕面駅周辺にビジターセンターのような建物をつくって、道の駅や箕面で有名なお店を出店してはどうかという意見も出た。

●箕面検定のところで、エンターテイメント性を盛り込んだミステリー仕立ての箕面を知る展開という記載があるので、箕面の魅力を大人も子供も楽しめる絵本のようなテキスト

にして、各図書館や学校、ギャラリーなどに置いてあれば、箕面のことをもっと好きになってもらいやすく紹介しやすいと思う。

●令和 6 年度、茨木市に日本一のつり橋が完成、整備されるという計画が進められている。今、日本一長い歩行者専用吊橋は静岡県三島市の「三島スカイウォーク」で、大体年間 100 万人ぐらいの観光客が富士山とセットで訪れるということで、茨木市も年間 100 万人を目指して進められていると聞いている。それが、箕面止々呂美インターの一つ東側の「茨木千提寺インター」のすぐそばの安威川ダムにて整備をされているので、相当数の観光客が訪れるのではいかと思う。箕面市としては、茨木市に来られた観光客の方も、箕面市にも回遊してもらえるような、箕面らしい観光地として、更にバージョンアップして、盛り上げて、ぜひ箕面市の今の観光スポットの点と点を線で繋いでいければ、新たなチャンスでもあると思う。今回の観光戦略のアクションプランも含めて、取り組んでいければなという風に思う。

〇箕面観光戦略なので、箕面の中だけの話というのもあるが、近隣自治体も含めての話もしていかないといけない。それぞれの点と点が結ばれて線になり、お金にしようと思ったら当然、面にしていかないといけないので、ご意見は大事なことだと思う。各地域にある観光協会という組織の連携というのも今後は模索をしていきながら、一つ新たなものをつくっていければと思う。また、お互いの組織において、相乗効果が得られるような観光の戦略を作っていけたらと思う。

●箕面にはサントリーのサンバーズバレーボールチームがあり、50 年間箕面を拠点に活動しておられる、日本各地でファンが多く遠路より試合を観戦に来られている。一方、吹田市ではガンバ大阪もあり、ずいぶんと観客を集めておられる。そういった方々を、スポーツと観光をくっつけるというような観点から、スポーツ観戦した後、箕面観光に誘うようなことも検討してはどうか。

〇今回いただいた意見は、この後、策定部会で検討し、最終的に第 3 回の全体会議で報告をする。委員の皆様も、策定部会でどういった話をされているのかという内容、進捗状況をそれぞれで共有していただきたい。

●公民連携箕面観光戦略会議 第２回全体会議 出席者名簿

分 野	団体・組織名	全体会議	備考
有識者	地域活性化伝道師（内閣府登録）	柚木健 様	座長
商業者 事業者	箕面商工会議所	松出末生 様	副座長
	箕面物産商組合	奥野輝夫 様	
	大江戸温泉箕面観光ホテル	安松隆行 様	
	阪急電鉄（株）	加藤淳 様	オンライン出席
	阪急タクシー（株）	中村慎治 様	
金融機関	（株）池田泉州銀行 箕面駅前支店	杭田智則 様	
寺社関係者	勝尾寺	小嶋隆文 様	オンライン出席
	西江寺	小倉叡裕 様	
まちづくり団体 観光関係団体	箕面まちづくり協議会	福西治 様	
	箕面FMまちそだて（株）	藤井栄治 様	
	箕面公園管理事務所	甲斐あゆみ 様	
	箕面都市開発（株）	広瀬幸平 様	
	箕面観光ボランティアガイド	澤村修 様	
	みのお山麓保全委員会	高島文明 様	
	箕面の森アートウォーク実行委員会	中谷雅代 様	
行政関係者	（公財）大阪観光局	梶浦愛子 様	オンライン出席
	池田土木事務所	服部博之 様	
	北部農と緑の総合事務所（みどり環境課）	穂積佳子 様	オンライン出席
	箕面市地域創造部	小山郁夫 様	
	箕面市教育委員会（文化国際室）	小林和幸 様	